



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2023年
6月23日
発行

第183回

「後手に回った植田日銀」

～日本株上昇は一段落～

初めに

今年の4月頃から日経平均は上昇に転じ、バブル後の高値を更新しましたが、ここにきて勢いを失いつつあるようです。自分はこのまま日本株の上昇はいったん終了するとみています。今回は、そう見る理由をお話しします。

理由は三つあります。一つは、日本株は既に大幅に上昇しており、短期的には買われ過ぎといわれてもおかしくない状況にある、ということです。テクニカル分析から言えば、いったん調整局面入りすることはむしろ当然と思われる。

米国のインフレは鎮静化へ

二つ目の理由は、米国のインフレの鎮静化です。高インフレは世界経済にとっての脅威ですが、特に米国ではインフレが大きな問題となっていました。米国の中央銀行FRBによるFOMCは会議のたびごとに世間の耳目を集め、特に金融市場では「利上げはあるのか、あるならどの程度になるのか」を巡って投資家は一喜一憂しました。しかし、6月13、14日に開催されたFOMCでは、FRBは利上げはいったん停止としました。これにより、インフレのリスクはいったん低下したとみてよいでしょう。今後、米国株は上昇すると思います。

一方、日本株にとってはどうでしょうか。最近の日本株の上昇は、インフレや金融不安など米国株の悪材料を避けるため海外の投資家の資金が日本に流入したことも理由の一つです。そうした資金はインフレなど米国の悪材料が解消されれば日本から米国など他の国にシフトしてしまうかもしれません。これが、米国のインフレが解消した場合に日本株が下落する可能性があるともみる理由です。

高まる国内のインフレ圧力

三つ目の理由は、日本国内におけるインフレ圧力の高まりです。日本は諸外国と比べてインフレ圧力は小さいといわれてきましたが、ここにきてインフレが問題になる事例が増えているようです。業種別には外食や物流などが多く、インフレの理由としては円安、原材料費・燃料費の高騰、人手不足などがあげられます。このままインフレ率の上昇が続けば、株式市場にとっても悪材料になるのは間違いないでしょう。しかし、こうした状況にもかかわらず日銀は異次元緩和に固執するばかりでインフレ対策に動こうとはしていません。植田日銀総裁にはなるべく早期にインフレ対策に着手するよう希望します。

終わりに

ここまでお話ししたように、日本株の上昇はいったん終了するとみています。ただ、日本株全体が悪いわけではなく、半導体関連や脱炭素関連など、投資妙味のある株式に投資することは考えられるでしょう。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。